

総合安全保障上の食糧問題

— 意識調査を中心にして —

佐 藤 尋 生

は じ め に

総合的安全保障研究は、資源小国日本の緊急かつ重要な研究課題であることは議論のあまりないところである。しかしその研究の方法論となると、少なくとも日本の研究体制は、非常に後進性を持っている。

安全保障の研究が「憲法学的研究」や「軍事力」の研究（防衛学的研究）をもって、多くの注目すべき研究が構成されている現状については、これまた多くの「研究者」「実務家」の大方の異論のないところであろう。

しかし、安全保障の研究が「平和問題」を取扱う研究分野である限りにおいては、単に法学的な研究だけでは、解決不可能な研究課題である。

それは、今日脚光を浴びている学際的な研究方法及び自然科学的アプローチが必要であり、総合的に取組むべき研究課題である。

今日ここに、その一つの試みとして、行動科学的アプローチを試みた。それがこの食糧問題の意識調査である。

アフリカにおける食糧問題が、解決不可能な重大性を及びている今日、食糧の安定供給がいかに安全保障の問題として重要であるか、新ためて認識する必要がある。

例えば、モロッコのハッサン国王が今年1月、食糧補助金を削減、食糧品値上げに踏切り、各地での食糧暴動により、総選挙の日程も吹っ飛んでしまい、あわてて補助金継続・値上で撤回を宣言し、「紀元2000年まで農業に対するあらゆる課税を廃止する」と発表した。

この様に例をあげるならば、食糧と国民との問題は、有史以来続いている問題であり、今日の日本の食糧問題及び「国の安全保障」の何万分の1かの「映像」が写し出せるならばと考えている。

わが国は食糧の多くの部分を海外に依存しております。より正確に言えば、日本の食糧供給の構造は二重になっている。一方には米、野菜、果実、水産物など完全自給か、相当自給率の高い食糧がある半面、ここ20年ほどの間に食生活が革命的に向上し、パン、めん、畜産物・油脂の消費が増したため、その原料となる小麦、大豆、トウモロコシなどの食糧は、ほとんど輸入に依存している現状です。

以上の状況を統一的にとらえるため、オリジナル・カロリーで計算すると、日本の食糧自給率は極めて低くなります。すなわち、肉・牛乳・鶏卵などを、そのもとになる飼料のカロリーに直し、日本人のとする食糧の全体をカロリーに換算して自給率を見ると5割を割り、計算によっては33%という数字も発表されています。

こうした状況は、日本人の食生活が海外に依存しており、万一その供給が絶たれた場合には、国民生活に大きな打撃を与えることを意味します。日本の脆弱性はこの面でも大きく、国際政治に密接な関係を持つわけ

です。

こうしたことから、大平内閣当時の「総合安全保障研究グループ報告書」にも「食糧安全保障」のチャプターを立て、食糧確保についての提言を行っているほどですが、さて、豊かさと平和の中に生れ育ってきた現代大学生は、この深刻な問題をどうとらえているか。国土舘大学・政教研究所は今後の研究テーマに食糧問題を取り上げることとし、その一環として58年12月、988名の大学生を対象として、この問題の意識調査を行いました。その結果と解析は以下のとおりです。

<基礎問題>

<男 女 比>

男 : 女	679 人		309 人	
文 科 系 : 理 科 系	662 人	287 人	67 人	29 人
専攻のみ無回答	39 人		4 人	

・あなたの学年

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 1 年	237	23.9	126	18.6	111	35.8
ロ. 2 年	255	25.8	165	24.3	90	29.0
ハ. 3 年	225	22.8	156	23.0	69	22.3
ニ. 4 年	218	22.1	191	28.0	27	9.2
ホ. 大 学 院	49	5.0	40	5.9	9	2.9
無 回 答	4	0.4	1	0.2	3	0.8
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

・あなたの住まい

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 親 と 同 居	498	50.3	308	45.4	190	61.4
ロ. 親 と 別 居	484	49.0	367	54.0	117	37.8
無 回 答	6	0.7	4	0.6	2	0.8
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

<調査期間>

昭和58年12月～昭和59年 1 月

<調査対象校>

東京大学、国士舘大学、一橋大学、日本大学、中央大学、津田塾大学、
大妻女子大学、早稲田大学、東洋大学、明治大学、駒沢大学、法政大

学、秋草学園短期大学、成蹊大学、東海大学、青山学院大学、東京女子大学、立教大学、慶応義塾大学、日本女子大学、富士短期大学、亜細亜大学、創価大学、拓殖大学、共立女子大学、東京医科歯科大学、東京理科大学、国学院大学、学芸大学、大東文化大学、城西大学、都立大学、東京工業大学、専修大学、明治学院大学、東京外国語大学、東京電気大学、上智大学、北里大学、戸板女子短期大学、埼玉大学、東京農業大学、筑波大学、東京経済大学、帝京大学、跡見女子大学、御茶の水女子大学、実践女子大学、神奈川大学、明星大学、日本体育大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学、桐朋学園音楽大学、農業工芸大学、横浜国立大学、東邦大学、武蔵大学、千葉大学、独協大学、芝浦工業大学、高千穂商科大学、国際商科大学、都立商科大学、東横学園、玉川学園、都留文化大学、工学院大学、電機通信大学、聖心女子大学、フェリス学院、杉野女子短期大学、武蔵野美術短期大学、専門学校。

＜調査方法＞

無作為抽出法

＜調査元＞

国土館大学政教研究所

<本 問>

栄養のバランス考えるが1/3

Q1. あなたの食生活について、お尋ねします。

あなたの現在の食生活はどのようなものですか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 栄養のバランスを考えた食事	302	30.6	180	26.4	122	39.5
ロ. 食費面の経済性	190	19.2	155	22.8	35	11.3
ハ. 貴重な資源という認識	38	3.8	31	4.6	7	2.1
ニ. 自分の好物を主に食べる傾向	279	28.3	169	25.0	110	35.7
ホ. 満腹感があればよい	160	16.2	129	19.0	31	10.1
ヘ. その他	18	1.8	14	2.1	4	1.3
無 回 答	1	0.1	1	0.1	0	0.0
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

「栄養のバランスを考えて食事をとる」が30.6%、家庭、学校教育、マスコミの影響による食生活合理化の表われだろう。「自分の好物を主に食べる傾向」(28.3%)と並び女子がそれぞれ39.5%、35.7%と高かった。

「経済性」「満腹感があればよい」という学生らしい考えは男子に多く22.8%、19%。以上の3つの設問にそれぞれ1/3の答が集った。「貴重な資源」と考える学生はやはり少ない。

あんがい少ないインスタント依存

Q2. あなたは、毎日どのような食事を中心としていますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 手料理が多い	480	48.5	255	37.5	225	72.7
ロ. 外食が多い	381	38.6	318	47.0	63	20.2
ハ. インスタント、加工食品が多い	105	10.7	93	13.6	12	4.2
ニ. その他	22	2.2	13	1.9	9	2.9
無 回 答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

「手料理」(48.5%)の大半は女子で72.7%。「外食」は男子が多く47%、インスタント世代といわれる現代学生にしては「インスタント、加工食品」が10.7%だったのは意外であった。

日本型食事志向が半数

Q3. また、毎日のあなたの献立は、和食・洋食に分けてどちらの傾向でしょうか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 米飯、魚中心の日 本型	516	52.3	373	55.0	143	46.2
ロ. パン、肉中心の欧 米型	311	31.4	195	28.7	116	37.4
ハ. そ の 他	161	16.3	111	16.3	50	16.4
無 回 答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

→S.Q. それは、どのような理由から肉食中心なのですか。

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 味が自分の好みに合っている	221	71.1	135	69.3	86	74.2
ロ. 栄養面で秀れている	31	10.0	17	8.7	14	12.4
ハ. 肉食の方が現代的	33	10.6	20	10.0	13	11.2
ニ. そ の 他	16	5.0	13	6.7	3	2.2
無 回 答	10	3.3	10	5.3	0	0.0
合 計	311	100.0	195	100.0	116	100.0

「米飯・魚中心」が52.3%で過半数。男子の比率が高く55%、(女子46.2%)、「パン・肉中心」の現代には「味が自分の好みに合う」が71.1%「栄養面で考えている」から食べるは女子がやや多く12.4% (男子8.7%)「現代的な感じがする」も10.6%。

完全自給に理解あるか

Q 4. 日本人の食生活が欧米型に偏っていますが、こうした現状に対して、あなたはどのように思いますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 日本型食生活に切り変えるべきだ	133	13.4	91	13.4	42	13.4
ロ. 日本型食生活への転換の徹底	103	10.4	87	12.6	16	5.5
ハ. 欧米型中心は変えられない。穀物も現在のように海外依存していればよい	272	27.5	187	27.6	85	27.4
ニ. 日本で完全自給できる体制の確立	400	40.6	256	37.7	144	46.6
ホ. そ の 他	75	7.6	53	7.9	22	7.1
無 回 答	5	0.5	5	0.8	0	0.0
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

「欧米型食生活の定着するのはやむを得ないが……完全自給体制を確立すべき」が40.6%と多い。しかし、完全自給が耕地、放牧面積の制約、費用対効果などの面で実効があがらないことを理解しているかどうか。この答に対して女子46.6%、男子37.7%。次いで「欧米型、海外依存」つまり現状維持が27.5%で男女同率、「日本型食生活」への回帰は2つの答を合せて23.8%、やはり若い世代の食生活の欧米型志向は自然の傾向のようだ。

「太るから」「パン好き」は女子に多い

Q5. 今の日本には米が余っているといわれていますが、こうした現実から、あなたはもっと米食をとらなければならないと思いますか。

(1つだけ○印をして下さい)

		全 体		男		女	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ.	国の食糧政策に協力するために、米食中心に切り変えたい	212	21.4	143	21.1	69	22.3
ロ.	古米、古々米でなければ米食中心でよい	209	21.2	163	23.9	46	15.1
ハ.	米が余っている実感がないので、米食を今よりもとりたいとは思わない	386	39.1	267	39.2	119	38.6
ニ.	米は太るといわれるので、とりたくない	44	4.5	19	2.9	25	8.0
ホ.	嗜好の点で、米食はとりたくない	25	2.5	6	1.0	19	5.9
ヘ.	その他の	108	10.9	78	11.5	30	9.7
	無 回 答	4	0.4	3	0.4	1	0.4
	合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

「米が余っている現状を実感できず、米食を多くとりたいと思わない」が39.1%で男女ほぼ同率。「国の食糧政策に協力するため」とマジメ型は21.4%。ただし「古米、古々米じゃなければ」の米飯好きも21.2%だが、

これは男子23.9％に比べ女子15.1％。反対に「太るから」「パン食好き」は女子に多く、スタイルを気にする現代子らしさが伺える。

バラついた理解度

Q 6. 現在、食管会計の赤字という問題により、お米の供給制度のあり方が問われています。そこであなたは、赤字解消のためにどのような方法をとったらよいと思いますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 政府の買入をもっと少なく制限する	122	12.4	82	12.1	40	13.0
ロ. 米の減産調整を図るべき	146	14.7	95	14.0	51	16.4
ハ. 生産者価格上昇抑制措置の強化	116	11.7	81	11.9	35	11.3
ニ. 自主流通米制度の見直し	178	18.1	120	17.5	58	19.0
ホ. 政府管理経費を減少し、売買損失を防ぐ	100	10.1	71	10.5	29	9.2
ヘ. 過剰米の処理損失を抑える	106	10.8	75	11.1	31	10.1
ト. 政府のPRにより米の消費量を増やす	169	17.1	113	16.7	56	18.0
チ. その他	43	4.3	38	5.6	5	1.7
無 回 答	8	0.8	4	0.6	4	1.3
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

食管会計は財政再建のなかで赤字3K「食管・健保・国鉄」がやり玉にあげられてきたが、消費者米・麦価の値上げで逆ざや解消がすすみ、だいぶ合理化されてきた。実は食糧管理費（59年度約8千億円）の中に水田利用再編対策も含まれるため、食糧管理費自体は減反強化につれて年々増加し、「食管赤字が多い」との印象を国民に与えている。専攻外の一般学生には理解しにくい設問だが、果して答は10％台でバラついた。理解度の問題であろう。強いていえば「自主流通米制度を見直し」（18.1％）し「国民

に対して米そのものの消費を増やす努力をすべき」(17.1%) あたりが妥当な線といえよう。

ほとんどが一位はアメリカと考える

Q7. 国民一人当たりの平均摂取カロリーを、世界各国別にみたら、あなたはどのような順になると思いますか。摂取カロリーの多いと思う順にカッコ内に、1、2、3……と番号を入れて下さい。

イ. アメリカ

順 位	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	638	64.5	433	63.7	205	66.4
2	170	17.2	109	16.1	61	19.7
3	61	6.2	51	7.5	10	3.4
4	28	2.9	18	2.7	10	3.4
5	26	2.6	23	3.4	3	0.8
6	5	0.5	5	0.8	0	0.0
7	10	1.1	6	1.0	4	1.3
8	12	1.2	8	1.1	4	1.3
9	3	0.3	0	0.0	3	0.8
10	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11	3	0.3	3	0.4	0	0.0
12	4	0.4	4	0.6	0	0.0
13	3	0.3	3	0.4	0	0.0
14	4	0.4	3	0.4	1	0.4
15	1	0.1	0	0.0	1	0.4
16	3	0.3	3	0.4	0	0.0
無回答	17	1.7	10	1.5	7	2.1
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ロ、ソ 連

順 位	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	55	5.5	37	5.4	18	5.9
2	129	13.1	77	11.2	52	16.8
3	68	6.8	44	6.5	24	7.6
4	68	6.8	35	5.2	33	10.5
5	56	5.7	38	5.6	18	5.9
6	51	5.1	35	5.2	16	5.0
7	61	6.2	42	6.1	19	6.3
8	88	8.9	63	9.2	25	8.4
9	65	6.6	48	7.1	17	5.5
10	70	7.1	53	7.9	17	5.5
11	74	7.5	57	8.4	17	5.5
12	43	4.3	34	5.0	9	2.9
13	36	3.7	23	3.4	13	4.2
14	30	3.0	23	3.4	7	2.2
15	27	2.8	22	3.3	5	1.7
16	36	3.7	30	4.4	6	1.9
無回答	31	3.2	18	2.7	13	4.2
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ハ、中華人民
共和国

	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	32	3.3	27	4.0	5	1.7
2	60	6.1	36	5.4	24	7.6
3	84	8.6	51	7.5	33	11.0
4	62	6.3	42	6.1	20	6.7
5	25	2.5	17	2.5	8	2.5
6	42	4.2	31	4.6	11	3.6
7	55	5.5	32	4.8	23	7.1

8	57	5.8	38	5.6	19	6.3
9	74	7.5	58	8.6	16	5.0
10	78	7.9	51	7.5	27	8.8
11	90	9.1	61	9.0	29	9.2
12	92	9.3	61	9.0	31	10.1
13	82	8.3	55	8.0	27	8.8
14	64	6.4	52	7.7	12	3.8
15	39	3.9	35	5.2	4	1.3
16	21	2.1	12	1.6	9	2.9
無回答	31	3.2	20	2.9	11	3.6
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ニ. フランス

	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	48	4.9	40	5.9	8	2.5
2	152	15.3	112	16.6	40	12.9
3	140	14.2	92	13.6	48	15.4
4	133	13.4	90	13.2	43	13.9
5	101	10.3	60	8.8	41	13.4
6	92	9.3	68	10.0	24	8.0
7	83	8.4	57	8.4	26	8.4
8	65	6.6	45	6.7	20	6.3
9	35	3.6	20	2.9	15	4.8
10	21	2.1	12	1.7	9	2.9
11	25	2.5	20	2.9	5	1.7
12	14	1.4	9	1.3	5	1.7
13	17	1.7	10	1.5	7	2.1
14	14	1.4	13	1.9	1	0.4
15	8	0.8	7	1.0	1	0.4

16	2	0.3	1	0.2	1	0.4
無回答	38	3.8	23	3.4	15	4.8
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ホ、イギリス

1	(人) 5	(%) 0.5	(人) 5	(%) 0.8	(人) 0	(%) 0.0
2	68	6.8	53	7.9	15	4.6
3	101	10.3	73	10.7	28	9.2
4	114	11.6	83	12.3	31	10.1
5	126	12.8	92	13.6	34	10.9
6	122	12.4	82	12.1	40	13.0
7	109	10.9	78	11.5	31	9.7
8	87	8.8	51	7.5	36	11.8
9	48	4.9	26	3.8	22	7.1
10	48	4.9	34	5.0	14	4.6
11	36	3.7	18	2.7	18	5.9
12	18	1.8	12	1.7	6	1.9
13	16	1.6	10	1.5	6	1.9
14	29	2.9	16	2.3	13	4.2
15	23	2.4	20	2.9	3	1.3
16	4	0.4	4	0.6	0	0.0
無回答	34	3.3	22	3.1	12	3.8
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ヘ、イタリア

1	(人) 73	(%) 7.4	(人) 34	(%) 5.0	(人) 39	(%) 12.5
2	87	8.8	60	8.8	27	8.8
3	99	10.0	68	10.0	31	10.1
4	90	9.1	60	8.8	30	9.7

5	118	12.0	85	12.6	33	10.5
6	112	11.3	80	11.9	32	10.1
7	91	9.2	62	9.2	29	9.2
8	92	9.3	73	10.7	19	6.3
9	69	7.0	51	7.5	18	5.9
10	32	3.3	21	3.1	11	3.7
11	35	3.5	25	3.6	10	3.4
12	26	2.6	14	2.1	12	3.9
13	17	1.7	13	1.9	4	1.3
14	7	0.7	7	1.0	0	0.0
15	12	1.2	8	1.1	4	1.3
16	5	0.5	4	0.6	1	0.4
無回答	23	2.4	14	2.1	9	2.9
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ト. スペイン

	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	17	1.2	9	1.3	8	2.6
2	26	2.6	18	2.6	8	2.6
3	37	3.8	23	3.4	14	4.5
4	62	6.3	46	6.8	16	5.2
5	85	8.7	74	10.9	11	3.6
6	108	10.9	62	9.1	46	14.9
7	121	12.2	87	12.9	34	11.0
8	105	10.7	70	10.3	35	11.3
9	97	9.9	57	8.4	40	12.9
10	109	11.1	72	10.6	37	12.0
11	56	5.7	40	5.9	16	5.2
12	41	4.2	30	4.4	11	3.6

13	33	3.4	23	3.4	10	3.2
14	24	2.5	21	3.1	3	1.0
15	9	0.9	7	1.0	2	0.6
16	24	2.5	17	2.5	7	2.2
無回答	34	3.4	23	3.4	11	3.6
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

チ. 西 独

1	(人) 5	(%) 0.5	(人) 3	(%) 0.4	(人) 2	(%) 0.6
2	59	5.9	47	6.9	12	3.9
3	116	11.7	87	12.8	29	9.4
4	114	11.6	96	14.4	18	5.8
5	119	12.1	79	11.6	40	12.9
6	109	11.1	74	10.9	35	11.3
7	105	10.7	77	11.3	28	9.1
8	79	8.0	53	7.8	26	8.4
9	87	8.8	44	6.5	43	14.2
10	43	4.3	26	3.8	17	5.5
11	34	3.4	20	2.9	14	4.5
12	33	3.3	23	3.4	10	3.2
13	20	2.0	10	1.5	10	3.2
14	10	1.1	4	0.6	6	1.9
15	12	1.2	7	1.0	5	1.6
16	5	0.5	3	0.4	2	0.6
無回答	38	3.8	26	3.8	12	3.9
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

リ、オースト
ラリア

	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	8	0.8	8	1.2	0	0.0
2	39	3.9	29	4.3	10	3.2
3	70	7.1	53	7.8	17	5.5
4	85	8.6	61	9.0	24	7.8
5	91	9.2	59	8.7	32	10.3
6	82	8.3	53	7.8	29	9.4
7	95	9.6	57	8.4	38	12.4
8	98	9.9	65	9.6	33	10.7
9	100	10.1	75	10.9	25	8.1
10	104	10.9	74	10.8	30	9.7
11	46	4.6	33	4.9	13	4.2
12	49	5.0	35	5.2	14	4.5
13	33	3.3	23	3.4	10	3.2
14	30	3.0	18	2.7	12	3.9
15	18	1.8	10	1.5	8	2.6
16	4	0.4	3	0.4	1	0.3
無回答	36	3.7	23	3.4	13	4.2
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ヌ、メキシコ

	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	4	0.4	3	0.4	1	0.3
2	9	0.9	4	0.6	5	1.6
3	21	2.1	18	2.7	3	1.0
4	26	2.6	17	2.5	9	2.9
5	38	3.8	22	3.2	16	5.2
6	43	4.3	26	3.8	17	5.5
7	44	4.5	27	4.0	17	5.5
8	55	5.5	40	5.9	15	4.9

9	100	10.1	71	10.5	29	9.4
10	120	12.1	77	11.3	43	13.8
11	136	14.0	100	14.8	36	11.7
12	122	12.4	81	11.9	41	13.3
13	104	10.5	81	11.9	23	7.4
14	64	6.4	44	6.5	20	6.5
15	52	5.3	34	5.0	18	5.8
16	14	1.4	12	1.8	2	0.7
無回答	36	3.7	22	3.2	14	4.5
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ル。ブラジル

	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	1	0.1	1	0.1	0	0.0
2	9	0.9	9	1.3	0	0.0
3	16	1.6	9	1.3	7	2.3
4	34	3.4	26	3.8	8	2.6
5	25	2.5	16	2.4	9	2.9
6	31	3.2	21	3.1	10	3.2
7	36	3.7	25	3.7	11	3.6
8	57	5.8	35	5.2	22	7.1
9	72	7.2	47	6.9	25	8.1
10	90	9.1	66	9.7	24	7.8
11	121	12.2	83	12.2	38	12.2
12	142	14.5	109	16.1	33	10.7
13	117	11.8	85	12.5	32	10.4
14	113	11.4	79	11.6	34	11.0
15	49	5.0	31	4.6	18	5.8
16	39	3.9	14	2.1	25	8.1

無回答	36	3.7	23	3.4	13	4.2
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ヲ. 中華民国

1	(人) 8	(%) 0.8	(人) 8	(%) 1.2	(人) 0	(%) 0.0
2	16	1.6	10	1.5	6	1.9
3	27	2.8	20	3.0	7	2.3
4	10	1.1	9	1.3	1	0.3
5	36	3.7	22	3.2	14	4.5
6	35	3.6	23	3.4	12	3.9
7	38	3.8	18	2.7	20	6.5
8	42	4.2	29	4.3	13	4.2
9	36	3.7	26	3.8	10	3.2
10	68	6.8	48	7.1	20	6.5
11	82	8.3	56	8.3	26	8.4
12	155	15.7	105	15.5	50	16.2
13	186	18.6	134	19.5	52	16.9
14	127	12.9	88	13.0	39	12.6
15	56	5.7	36	5.3	20	6.5
16	27	2.8	21	3.1	6	1.9
無回答	39	3.9	26	3.8	13	4.2
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ヲ. 香 港

1	(人) 3	(%) 0.3	(人) 3	(%) 0.4	(人) 0	(%) 0.0
2	4	0.4	3	0.4	1	0.3
3	10	1.1	9	1.3	1	0.3
4	26	2.6	8	1.2	18	5.8
5	30	3.0	23	3.4	7	2.3

6	31	3.2	19	2.8	12	3.9
7	38	3.8	26	3.8	12	3.9
8	44	4.5	38	5.6	6	1.9
9	78	7.9	64	9.4	14	4.5
10	64	6.4	48	7.1	16	5.2
11	90	9.1	61	9.0	29	9.4
12	103	10.4	70	10.3	33	10.7
13	137	13.8	87	12.8	50	16.2
14	195	19.8	135	19.9	60	19.4
15	68	6.8	42	6.2	26	8.4
16	36	3.7	23	3.4	13	4.2
無回答	31	3.2	20	3.0	11	3.6
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

カ. タ イ

	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	1	0.1	1	0.2	0	0.0
2	3	0.3	1	0.2	2	0.7
3	1	0.1	1	0.2	0	0.0
4	8	0.8	7	1.0	1	0.3
5	16	1.6	7	1.0	9	3.0
6	7	0.7	4	0.6	3	1.0
7	4	0.4	3	0.4	1	0.3
8	12	1.2	9	1.3	3	1.0
9	13	1.3	10	1.5	3	1.0
10	21	2.1	13	1.9	8	2.6
11	40	4.1	23	3.4	17	5.5
12	36	3.7	20	3.0	16	5.2
13	73	7.4	48	7.1	25	8.1

14	138	14.0	99	14.6	39	12.6
15	402	40.6	280	41.1	122	39.3
16	173	17.5	126	18.5	47	15.2
無回答	40	4.1	27	4.0	13	4.2
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

ヨ. イ ン ド

1	(人) 5	(%) 0.5	(人) 4	(%) 0.6	(人) 1	(%) 0.3
2	1	0.1	1	0.2	0	0.0
3	3	0.3	3	0.4	0	0.0
4	1	0.1	0	0.0	1	0.3
5	5	0.5	3	0.4	2	0.7
6	10	1.0	6	0.9	4	1.3
7	8	0.8	8	1.2	0	0.0
8	12	1.2	9	1.3	3	1.0
9	10	1.0	8	1.2	2	0.7
10	27	2.7	17	2.5	10	3.2
11	30	3.0	17	2.5	13	4.2
12	36	3.6	27	4.0	9	3.0
13	51	5.2	32	4.7	19	6.2
14	86	8.7	51	7.5	35	11.3
15	170	17.2	126	18.6	44	14.2
16	491	49.8	338	49.7	153	49.4
無回答	42	4.3	29	4.3	13	4.2
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

タ. 日 本

1	(人) 75	(%) 7.6	(人) 53	(%) 7.8	(人) 22	(%) 7.1
2	140	14.2	102	14.8	38	12.3

3	111	11.2	64	9.4	47	15.1
4	95	9.6	56	8.3	39	12.6
5	81	8.2	57	8.4	24	7.8
6	68	6.9	53	7.8	15	4.9
7	64	6.5	53	7.8	11	3.6
8	70	7.1	52	7.7	18	5.8
9	66	6.7	53	7.8	13	4.2
10	44	4.5	30	4.4	14	4.5
11	51	5.2	36	5.3	15	4.9
12	34	3.4	18	2.7	16	5.2
13	22	2.2	8	1.2	14	4.5
14	18	1.8	10	1.5	8	2.6
15	3	0.3	0	0.0	3	1.0
16	23	2.3	18	2.7	5	1.6
無回答	23	2.3	16	2.4	7	2.3
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

先進国、中進国をアトランダムにあげて、どの国が平均摂取カロリー1位かを当てる意識調査。やはり豊かな「アメリカ」と指摘するものが圧倒的で、男女別のバラつきも少ない。正解は「アメリカ」で常識どおり。

「オランダ」で常識は当たらなかった。また日本を1位と考えるものは少数（7.6％）で2、3位と考える者が比較的多かった（合せて25.4％）が正解は12位。なお、アメリカと日本のカロリー摂取量の差は3311カロリー対2522カロリーである（1973年、1977年、1981年、1983年統計）。

食品添加物に警戒感

Q8. あなたは、インスタント食品や加工食品に使われている食品添加物を安全だと思いますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 安全だと思う	107	10.8	87	12.8	20	6.5
ロ. 安全だとは思わない	625	63.3	396	58.4	229	74.1
ハ. どちらともいえない	251	25.4	191	28.1	60	19.4
無 回 答	5	0.5	5	0.7	0	0.0
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

→SQ1. どのような理由で、安全でないと思いますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 人体に悪影響を及ぼす	466	74.5	271	68.5	195	85.1
ロ. 食品安全基本法の基準自体に疑問がある	95	15.2	69	17.4	26	11.4
ハ. 化学テストに不信感がある	36	5.8	33	8.3	3	1.3
ニ. 審査官に対する不信感	21	3.4	16	4.0	5	2.2
ホ. そ の 他	7	1.1	7	1.8	0	0.0
無 回 答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	625	100.0	396	100.0	229	100.0

SQ2. あなたが人体に危険と思っている食品添加物があれば、下記の中から、お答え下さい。い。

(いくつでも○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 保 存 料	475	15.3	256	14.5	219	16.3
ロ. 酸 化 防 止 剤	377	12.1	209	11.8	168	12.5
ハ. 膨 張 剤	222	7.1	124	7.0	98	7.3
ニ. か ん 水	130	4.2	78	4.4	52	3.9
ホ. 殺 菌 剤	372	12.0	208	11.8	164	12.2
ヘ. 人 工 甘 味 料	391	12.6	228	12.9	163	12.1
ト. 着 色 料	551	17.7	327	18.4	224	16.7
チ. 着 香 料	302	9.7	174	9.9	128	9.5
リ. 調 味 料	130	4.2	82	4.7	48	3.6
ヌ. 酸 味 料	124	4.0	77	4.4	47	3.5
ル. そ の 他	13	0.4	1	0.1	12	0.9
無 回 答	22	0.7	1	0.1	21	1.6
合 計	3,109	100.0	1,765	100.0	1,344	100.0

「安全だと思わない」が63.3%、「安全だと思う」は逆に10.8%。やはり不安感がある。ではなぜ「安全でないのか」のSQに対して「人体に何らかの悪影響を及ぼす」と考えるものが74.5%の大多数。「食品安全基本法の認可基準」そのものに対する疑問を表明したものが15.2%だった。

SQ2 は具体的な危険の指摘で「着色料」(17.7%)「保存料=防腐剤」(15.3%)「人工甘味」(12.6%)「酸化防止剤」(12.1%)「殺菌剤」(12.0%)の順。男女差なし。

農業に対しても警戒感

Q9. また、現在、農家では、作物の病気や、害虫を防ぐために農薬を散布していますが、こうした農産物を食べてもあなたは安全だと思いますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 安全だと思う	112	11.3	100	14.7	12	3.9
ロ. 安全だと思わない	643	65.1	397	58.5	246	79.6
ハ. どちらともいえない	229	23.2	178	26.2	511	6.5
無 回 答	4	0.4	4	0.6	0	0.0
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

→SQ どのような理由で安全でないと思いますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 人体に何らかの悪影響を及ぼすと思う	425	66.1	247	62.2	178	72.4
ロ. 農家が農薬を使いすぎる	88	13.7	68	17.1	20	8.1
ハ. 無農薬の農産物が健康によいといわれているから	79	12.3	52	13.1	27	11.0
ニ. 有機農業の方法もあるから	43	6.7	26	6.6	17	6.9
ホ. その他	8	1.2	4	1.0	4	1.6
無 回 答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	643	100.0	397	100.0	246	100.0

「安全だと思わない」がQ8よりやや多く65.1%。SQ で具体的に多くて、「人体に悪影響」が66.1%で「農薬を使いすぎる」13.7%。Q8の傾向とそう変わらない。

世界の食糧事情も危機感を抱く

Q 10. さて、世界の食糧事情の現状から将来に向けて、あなたは食糧危機を感じますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. かなり大きな危機感をもっている	199	20.1	156	23.0	43	13.9
ロ. どちらかという と、危機感をも っている	399	40.4	274	40.4	125	40.5
ハ. どちらかという と、危機感はない	168	17.0	113	16.6	55	17.8
ニ. 全く危機感はない	57	5.8	35	5.2	22	7.1
ホ. どちらともいえない	109	11.0	70	10.3	39	12.6
ヘ. わからない	51	5.2	26	3.8	25	8.1
無 回 答	5	0.5	5	0.7	0	0.0
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

→SQ それはどのような危機感ですか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 異常気象による農 産物収獲量全体の 激減	107	17.9	75	17.4	32	19.1
ロ. 土壌の養分・水分 欠乏や汚染	61	10.2	44	10.2	17	10.1
ハ. 人口増加に伴う 食糧不足	271	45.4	195	45.5	76	45.1
ニ. 食糧分配の不公平 から生じる供給ア ンバランス	87	14.5	62	14.4	25	14.9
ホ. アメリカの食糧戦 略	21	3.5	16	3.7	5	3.0
ヘ. 農耕技術、栽培研 究の未発達	3	0.5	3	0.7	0	0.0
ト. 食品添加物の危険 性	8	1.3	5	1.2	3	1.8

チ. 開発途上国の飢餓	29	4.8	22	5.1	7	4.2
リ. その他	4	0.7	1	0.2	3	1.8
無 回 答	7	1.2	7	1.6	0	0.0
合 計	598	100.0	430	100.0	168	100.0

「大きな危機感をもっている」もの「どちらかという危機感をもっている」もの合せて60.5%、「危機感なし」(17%)を大きく上回った。では、「どのような危機感」かの SQ に対して「人口増加に伴う食糧不足」(45.4%)、「干ばつなど異常気象による収穫量の減少」(17.9%)「土 壌 汚 染」(10.2%)はまず常識的な線、飢えるアフリカ・東南アジアなどについてのマスコミ情報を受けているせいだろう。「農耕技術、栽培研究の未発達」と答えたものはごく少数(0.5%)。農業先進国としての日本の貢献がこの分野で期待されているようだ。

大多数が自給率の低さを指摘

Q 11. さらに、日本における将来の食糧問題に対して、あなたは不安感をもっていますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. かなり大きな不安感を感じている	205	20.7	156	23.0	49	15.9
ロ. どちらかという、不安な方	401	40.6	269	39.6	132	42.6
ハ. どちらかという、安心している	163	16.5	109	16.1	54	17.5
ニ. 全く不安はない	47	4.8	39	5.7	8	2.6
ホ. どちらともいえない	121	12.2	75	11.1	46	14.9
ヘ. 日本の食糧問題に対する認識がないのでわからない	44	4.5	26	3.8	18	5.8
無 回 答	7	0.7	5	0.7	2	0.7
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

→SQ それは、どのような不安感ですか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 栽培技術の未発達	4	0.7	4	0.9	0	0
ロ. 日本の土壌の養分 欠乏や汚染	40	6.6	22	5.2	18	9.9
ハ. 農薬、添加物による 食物の危険性	34	5.6	25	5.9	9	5.0
ニ. 農業の潜存生産力 が維持されていないこと	29	4.8	23	5.4	6	3.3
ホ. 食糧全体の自給率 が低い	242	39.8	176	41.4	66	36.5
ヘ. 食糧備蓄が万全で ないこと	38	6.3	27	6.4	11	6.1
ト. 日本における食糧 全体の海外依存度 が高い	163	26.9	105	24.7	58	32.0
チ. 貿易摩擦が激化し ている実情	34	5.6	26	6.1	8	4.4
リ. 食糧安全保障の未 確立	12	2.0	12	2.8	0	0.0
ヌ. そ の 他	7	1.2	5	1.2	2	1.1
無 回 答	3	0.5	0	0.0	3	1.7
合 計	606	100.0	425	100.0	181	100.0

次ぎは日本。「大きな不安感を感じている」もの「どちらかという と不安」なものが合せて61.3%、これも危機感なし(31.3%)を上回った。「どのように不安なのか」のSQに対しては「自給率が低い」(39.8%)「海外依存度が高い」(26.9%)が多数で、Q4の答えにはほぼ対応する、「有事の際の食糧安全保障が確立されていない」は1.2%と少数だったが、実にシーレーン防衛、備蓄、管理など、この面の重要性が最近専門家の間で指摘され、重要な問題として研究が促進されている。

難しい農業安保政策が戸惑う？

Q 12. あなたは、日本の食糧自給体制を現在よりも、向上させるべきだと思いますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
イ. 絶対に、現在より自給体制を向上させるべき	(人) 259	(%) 26.2	(人) 204	(%) 30.0	(人) 55	(%) 17.8
ロ. できれば向上させるべき	393	39.7	251	37.0	142	45.9
ハ. 現在の自給体制のままでよい	138	14.0	90	13.3	48	15.5
ニ. 現状の自給体制をもっと緩和しより輸入に依存すべき	56	5.7	44	6.5	12	3.9
ホ. どちらともいえない	135	13.7	85	12.5	50	16.2
無 回 答	7	0.7	5	0.7	2	0.7
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

→S Q 1. どのような食糧を自給することが望ましいと考えますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
イ. 早急に、米を 100% 自給体制を確立すべき	(人) 46	(%) 7.1	(人) 34	(%) 7.5	(人) 12	(%) 6.1
ロ. 米、大豆、小麦も完全自給できる体制を確立すべき	230	35.3	152	33.4	78	39.7
ハ. 畜産保護のため、飼料の自給体制を優先する	117	18.0	86	18.9	31	15.7
ニ. 穀物以外に多くの農産物の自給体制をめざす	241	36.9	170	37.3	71	36.0
ホ. そ の 他	14	2.1	10	2.2	4	2.0
無 回 答	4	0.6	3	0.7	1	0.5
合 計	652	100.0	455	100.0	197	100.0

SQ2. 食糧自給体制をつくるための日本の政策として、あなたは、どのようなことが、望ましいと考えますか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 有事に備えた、食糧緊急増産体制の確立	73	11.2	48	10.6	25	12.7
ロ. 食糧の消費動向に即応した生産体制の確立	216	33.0	149	32.6	67	34.0
ハ. 農業技術と農業用地の有効利用による、食生活の保障	108	16.6	74	16.3	34	17.3
ニ. 農地制度の改革などによる自給体制の確立	143	22.0	99	21.8	44	22.3
ホ. 食糧自給の農業保護体制の確立	99	15.2	73	16.0	26	13.2
ヘ. その他	5	0.8	4	0.9	1	0.5
無 回 答	8	1.2	8	1.8	0	0.0
合 計	652	100.0	455	100.0	197	100.0

「絶対に向上させるべき」(26.2%) 「できれば向上させるべき」(39.7%) で合せて65.9%。では自給の具体策を SQ1 で聞くと「食糧穀物全体の完全自給」が35.3%、「畜産保護のための飼料自給」(18%) 「米・飼料などの穀物以外の農産物自給体制」(36.9%) が比較的高率だったが、Q4の解答に述べたとおり諸般の制約、費用対効果の関係でむずかしい。といって Q12「現在の自給体制のままでよい」(14.0) とも断定できず、ここに農業安全保障政策の困難さがある。SQ1「米を100%自給」(7.1%) は現在それ以上になっている。都会の学生のなかにはこの問題に対する理解の低いものが、かなりあることを示している。

次いで SQ2 で「自給体制をつくるための政策」を問うと「国内の食糧の消費動向に即応した生産体制の確立」(33.0%) 「農地制度の改革、価格、流通、技術など見直しによる生産体制確立」(22.0) の順で「有事に

備えた緊急増産体制確立」は実感がないのか11.2%。「ECのような…農業保護体制」は自由貿易主義の立場からは自制すべきものだが15.2%あった。いずれのQに対しても男女差はあまりなかったのが特徴といえよう。

穀物の外国依存は知っている

Q 13. 私たちの食生活で馴じみ深い下記の食物のうちで、その半分以上を外国産に依存していると思うものに○印をして下さい。(いくつでも結構です)

	全 体		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ. 大 豆	785	11.1	568	11.2	217	10.8
ロ. トウモロコシ	716	10.1	507	10.0	209	10.4
ハ. 小 麦	826	11.5	571	11.4	255	12.5
ニ. 大 麦	638	9.0	475	9.4	163	8.1
ホ. ソ ラ 豆	244	3.4	174	3.4	70	3.5
ヘ. レ モ ン	776	10.9	537	10.6	239	11.8
ト. 牛 肉	706	10.0	477	9.4	229	11.3
チ. 豚 肉	283	4.0	198	3.9	85	4.2
リ. 鶏 肉	177	2.5	129	2.5	48	2.4
ヌ. マ グ ロ	281	4.0	189	3.7	92	4.6
ル. タ イ	137	1.9	96	1.9	41	2.0
ヲ. イ ワ シ	113	1.6	81	1.6	32	1.6
ワ. タ コ	215	3.0	159	3.1	56	2.8
カ. エ ビ	481	6.8	329	6.5	152	7.5
ヨ. ソ バ	259	3.7	209	4.1	50	2.5
タ. こ ん に ゃ く	126	1.8	100	2.0	26	1.3
レ. ワ サ ビ	103	1.5	83	1.6	20	1.0
ソ. 海 苔	113	1.6	96	1.9	17	0.8

ツ. し い た け	105	1.5	87	1.7	18	0.9
無 回 答	5	0.1	5	0.1	0	0.0
合 計	7,089	100.0	5,070	100.0	2,019	100.0

大豆、トウモロコシ、小麦、レモンなど外国依存とした人は700人以上、これはほぼ間違っていない。しかし食肉類（牛肉を含む）はほとんど自給できる（但し粗飼料は外国依存。ソバ、ノリなどが輸入に頼っている現状であることはあんがい知られていないようだ。水産物も自給できるもの（イワシなど）と自給できないもの（マグロ等）がある。

保護主義は少数派

Q 14. さて、最近、問題になっている牛肉・オレンジ輸入の自由化について、あなたはどのように思いますか。

（1つだけ○印をして下さい）

		全 体		男		女	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
イ.	牛肉・オレンジに限らず、すべての輸入品目を完全自由化にすべき	205	20.7	170	25.0	35	11.3
ロ.	牛肉・オレンジの範囲内ならば輸入拡大してもよい	183	18.5	135	20.0	48	15.5
ハ.	牛肉・オレンジだけとはいえども、輸入拡大してはいけない	139	14.1	74	11.0	65	21.0
ニ.	どちらともいえない	441	44.7	284	41.6	157	50.9
無 回 答		20	2.0	16	2.4	4	1.3
合 計		988	100.0	679	100.0	309	100.0

→(S Q A. に)

→(S Q B. に)

→SQA. どのような理由で、輸入拡大及び輸入自由化に賛成なのですか。(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
イ. 価格が安くなり、食生活が豊かになるから	(人) 152	(%) 39.1	(人) 113	(%) 37.1	(人) 39	(%) 46.9
ロ. 農家に刺激を与え、過保護をなくすから	117	30.2	107	35.1	10	12.1
ハ. 食糧安全保障上、アメリカの要請を受けるべきだ	55	14.2	43	14.1	12	14.5
ニ. 牛肉そのものを輸入した方が合理的だから	47	12.1	26	8.5	21	25.3
ホ. その他	9	2.3	8	2.6	1	1.2
無 回 答	8	2.1	8	2.6	0	0.0
合 計	388	100.0	305	100.0	83	100.0

→SQB. どのような理由で反対なのですか。

(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
イ. 輸入拡大により、日本の生産農家が保護されないから	(人) 27	(%) 19.4	(人) 23	(%) 31.1	(人) 4	(%) 6.2
ロ. 供給バランスの不安定や農業基盤がこわれる恐れがある	67	48.2	29	39.1	38	58.4
ハ. 農業保護政策の妨げとなるから	30	21.6	10	13.5	20	30.8
ニ. 世界の市場価格の上昇につながるから	9	6.5	7	9.5	2	3.1
ホ. その他	1	0.7	0	0.0	1	1.5
無 回 答	5	3.6	5	6.8	0	0.0
合 計	139	100.0	74	100.0	65	100.0

「すべての輸入品目を完全自由化」が20.7%、「牛肉・オレンジの輸入

拡大」が18.5%、計37.2%という数字が出ている。反対に牛肉・オレンジといえども「輸入拡大はいけない」が14.1%で比較的少数。

自由化を支持するもののSQでは「価格が安くなり、食生活が豊かになる」が39.1%。「農家の過保護をなくす」(30.2%)「アメリカの要請を受けるべき」(14.2%)「牛肉輸入が合理的」(12.1%)。これは自由貿易主義の立場に立った都会型意識といえる。特に「価格が安くなり、食生活が合理化する」の女子解答は46.9%にのぼった。反対に保護貿易型、つまり現在の農村の主張と同じ型がSQ2で、「農産物完全自由化を招き、供給バランスの不安定、日本の農業基盤の崩壊の恐れ」を心配するものが48.2%(女子51.1%)、「農業保護政策の妨げになる」(21.6%)。同様に「日本の生産農家が保護されない」(19.4%)、は地方出身学生の意識であれば、現実を弁護せざるを得ない解答として十分理解できる解答である。

Q 15. 食糧安全保障のために、日本は諸外国に対しどのような対応をすべき、と考えますか。(1つだけ○印をして下さい)

	全 体		男		女	
イ. 輸入先を多元化することによる安定輸入体制	(人) 220	(%) 22.3	(人) 173	(%) 25.5	(人) 47	(%) 15.2
ロ. 輸入品目をめぐる貿易摩擦の解消、安定的輸入協約	372	37.6	214	31.5	158	51.1
ハ. 農業技術開発につながるソフト、技術の輸入	129	13.1	103	15.2	26	8.4
ニ. 国際関係の改善	221	22.4	151	22.2	70	22.7
ホ. シーレーンなど防衛上の対策強化	31	3.1	27	4.0	4	1.3
ヘ. その他	7	0.7	3	0.4	4	1.3
無 回 答	8	0.8	8	1.2	0	0.0
合 計	988	100.0	679	100.0	309	100.0

この設問のイ～ホまでがいわゆる食糧安全保障の手段で、それらを総合したものが食糧安全保障と呼ばれるものである。「貿易摩擦の解消」(37.6%)はQ14などの自由貿易主義と対応するが「輸入多元化」(22.3%)はむしろ不安定要因となる。「発展途上国への援助、協力」(22.4%)は重要な政策課題だし、ぜひやらねば将来、日米、日欧の摩擦の原因及び不信感のもとにさえなる由々しき問題を大きく含んでいる。Q10「農業技術の未発達」(0.5%)と数字の上では矛盾する。「シーレーン防止」が3.1%と少数派で、Q11の「有事の際の食糧安保の確立」(1.2%)に対応する。食糧はエネルギーに比べてやや自給率が高いせいだろうか。もっとも前回調査「現代大学生の資源、エネルギー問題に関する実態調査」でも「シーレーン防衛」は2.6%であった。